

●T2 裏路地探検 参加募集

平成28年10月8日(土)10:00~12:00
「農村歌舞伎舞台が残る村」養父市葛畑

*上記実施日の10日前までに、18ページに掲載の但馬の情報誌「T2」編集部まで、住所・氏名・年齢・電話番号・「T2 裏路地参加希望」とお書きの上、ハガキで申し込みください。開催当日は午前中、現地集合・現地解散となります。申込締切後、参加ご希望の方へ郵送にて案内を送付します。



蔵のある農家が数多く佇む桃島地区。のどかな農村風景と湿地が広がり、周辺はトンボの宝庫として有名。

農業用の貯水池として活用されていた桃島池。絶滅危惧種に指定されている、体長約3cmの小さなヒヌマイトトンボが生息する。汽水域の湿地などにおいて、5月下旬から9月下旬にかけて見られる。



非常に珍しいトンボ、ヒヌマイトトンボの生息地。オスの背には黄緑色の斑点が4つ、メスはオレンジ色の特徴がある。

かつてはこの辺りまで池であったが、山陰本線の工事で埋め立てられた。

ヨシ原、湿地が広がり、木道が整備されている。

かつてこの辺りには大きな「いと（船着場）」があり、温泉街への玄関口となっていた。道路が整備される以前、山が川に迫り、平地が少ないこの地へは船が交通の主役。八

駅通りから大谿川を目指して歩くと現れてくるのが、住民の外湯として親しまれてきた地蔵湯。源泉から地蔵尊が出てきたことからその名が付いた。

江戸時代には温泉医学の権威・香川修徳が現在の「二の湯」を「天下第一の湯」と称し、多くの湯治客で賑わった。東に円山川、三方を山で囲まれた谷間にある温泉街の中心には大谿川が流れ、柳並木や木造三階建ての旅館と相まって、情緒あるまち並みを創り出している。

伝説によれば、約1400年前にコウノトリが足の傷を癒したことから発見されたという城崎温泉。

裏路地探検

城崎温泉のふたつの顔を歩く／豊岡市城崎町湯島・桃島

山陰の名湯として、文人墨客や湯治客に愛されてきた城崎温泉のまち並み…。路地に入り込めば、違った景色が見える。



桃源水を背にして表通りを望む。橋と木造の旅館が趣を見せる。城崎案内人の四角さん、お気に入りの風景。



子育て・安産の神「鬼子母神(左)」は柳湯の守護神であり、温泉に入った後にお参りすれば、子授けのご利益があると言われる。



天文年間(1532~1555年)に開基されたと伝わる、法華宗真門流の寺院「養法山 本住寺」。旧豊岡藩の14代目当主として生まれた、俳人・京極紀陽が同寺で詠んだ歌の句碑がある。しだれ桜、沙羅、萩、キリシマなど、花の寺としても知られ、四季折々の花々と出会える。



柳湯の裏手にある「桃源水(上)」は、慶安3年(1650)に発見されたと伝わる井戸。地下に温泉がある城崎では真水の確保が大変だった。裏山から湧き出ているために温泉水と混じらず、長く生活用水として使われていた。反対側の桃島には「桃りよう水」が湧き出ている。



「江戸時代、一の湯から西は湯治客が集う旅館街、東の地域は商家が軒を連ねる町人の町でした。昔は間口の大きさを税金が決められていたので、「うなぎの寝床」と呼ばれる細長い家が多いのが特徴です」と、蕎麦屋を営むかたわら、城崎案内人としてガイドを務める四角澄朗さん。

「山陰本線」の電化の架線の終点駅以外にあるのは珍しい。山陰本線。新地から北へ足を向けると、桃島地区へと抜ける坂道が見えてくる。かつては山の峠道を越えていたそうだが、今は切通しとなり、車が行き来できるようになっている。ちなみに裏山には、すり鉢状のスキー場があった。浴衣に丹前を羽織った温泉客がスキーを楽しんでいたという、浴衣の町・城崎温泉らしいエピソードも残っている。

「ここを越えると、景色が一変します。温泉街から少し歩くだけで、のどかな農村風景があることを知って欲しかった」と、四角さん。そこは賑やかな温泉街とは一線を画す、時間が止まったような空間が広がる。間口が広い農家が軒を連ね、今では珍しくなった蔵を持つ家が非常に多い。外湯歩きとはまた違った趣があり、城崎の二面性を感じられる場所だ。

路地に入り込むと、色々な風景と出会う城崎温泉。表通りから寄り道するのもおすすめです。

大正15年に作られたスキー場が昭和56年頃まで営業していた。「ころびつかれた城崎」と言われ、浴衣姿の温泉客が楽しんだという。

北但大震災に耐えた蔵

六地蔵

切通し

靴の専門店や物産店、飲食店が再開するなど、城崎温泉火災からの復興が進んでいる。

本住寺

遊技場とヌードスタジオ跡

電化の架線の終点駅以外にあるのは珍しい

桃島池

子授安産の神「鬼子母神」「延命地蔵」と震災で頭だけ残った「頭がよくなるお地蔵さん」

子授安産、子授けの湯「柳湯」

至一の湯



新地に残るかつての遊技場。木造の格子窓や外壁、スマートボールの看板が往時の様子を伝える。周辺は城崎の代表的な夜遊びスタイルである「スナック」が点在する。

大谿川と柳並木

北但大震災からの復興の際、護岸には玄武洞の玄武岩が使用された。

湯島地区

至城崎温泉駅

家内安全・水子供養、衆生救いの湯「地蔵湯」

駅ができるまで、船着場が玄関口であり、高札場が置かれていた。